



島教協

《すべては「子どもたちのために」》 情 報

http://www.kyougikai.org

E-mail
office@kyougikai.org

〒693-0011 出雲市大津町2214 Tel/Fax:0853(22)7762 代表者 吉田 修 編集人 曾田史郎 No.655

第二回執行委員会

六月二十九日(土)、第二回執行委員会をビッグハート会議室で開催しました。今回の主な議題は、県教委交渉の要望項目、会員アンケート、今後の島教協の運営に関するものでした。

県教委への要望項目や内容については、これから行う会員アンケートの結果を踏まえて作成していきますが、その素案として、特別支援教育の充実、再任用制度のあり方、教職員評価制度の意義、教職員の定数増等について、現場の実情を交えながら活発な議論がなされました。

会員アンケートについては、教育現場を取り巻く環境に関するアンケートの実施が承認されました。このアンケートに加え、夏休み中の「学校訪問」で、会員の皆様の現状やお考えを直接聞いたりしながら、秋に予定している県教委交渉に臨みます。

今後の島教協の運営については、会員数減のため専従制度がいつまで存続できそうか、事務局より見通しを説明しました。複数案がありますので、一学期以降に会員の皆様に説明し、意向を伺いたいと思います。しかしながら、組織の維持拡大に必要なのは、何より会員増です。夏休み中、一人でも仲間が増えるようご協力をお願いします。

給与削減の厳しい情勢ですが、先日、県教委の今井教育長と鴨木教育次長と直接話す機会がありました。教育長さんからは「今回の給与減額、大変申し訳ない。この財源をどう教育に活かすかだ。皆さんの勤務条件の改善にも全力を尽くす。ぜひ現場の声を聞かせてほしい。」と話がありました。次長さんからも「習さんに我慢をしてもらって大変申し訳ない。財源の使い道の審議が本格的に始まったところだ。今回生み出された財源がどのように使われたのか、皆さんに分かるよう伝えるようつきまじんと説明していく。」と話されました。

「すべては子どもたちのために」の理念のもと、島教協だからこそできる要望 提言があるはずですよ。それを推し進めたいと思います。



第四、五次中央要請行動

六月二十四日(月)、二十五日(火)、全日教連の第四次、五次中央要請行動に参加しました。

二十四日は自民党本部にて、国会議員の方々と意見交換をしました。私から、今回の地方交付税減について、島根県は平成九年から独自に給与削減していること等、地方は地方で我慢し続けているのに、今回の国家公務員に準じての交付税減は地方自治の趣旨としてもおかしい、現場の士気は著しく低下していることを伝えました。また、三十五人学級推進について、少人数学級がいかに効果的か、小学校での勤務経歴を踏まえながら説明し、理解を求めました。いずれも、現場の教職員が安心して教育活動に専念できる環境作りに尽力してほしい、という趣旨で要望しました。

また、二十五日は文部科学省での要望活動にも参加しました。内容等は後日お知らせします。短時間ではありましたが、現場の様子、島根県の実情を中央に伝える貴重な機会となりました。

祝！新規加入

吾郷千佳子さん (出雲南中)

夏休み中、隣の人への声かけからお願います。以前に学校代表の方へ「組織拡大資料」を送っております。そちらの方も一度ご確認ください。

なお、勧誘活動への助成金制度もあります。事務局までご相談ください。

教育講演会のお知らせ

「日本人はなぜ 日本のことを知らないのか」

～神話を学ぶ大切さ～

10月6日(日) 13:30～16:00



講師

竹田 恒泰 氏

と き

場所

朱鷺会館 (「しまね花の郷」の隣です)

出雲市西新町2丁目2456-4

申し込みは、島教協事務局まで。
電話またはFAXでお申し込みください。
Tel(Fax)0853(22)7762

なお、FAX送信票は、島教協HPより印刷できます。

ただ・つねやす

昭和50年(1975年)、旧皇族・竹田家に生まれる。明治天皇の玄孫にあたる。慶應義塾大学法学部法律学科卒業。専門は、憲法学・史学。作家であり、また慶應義塾大学法学研究科講師(憲法学)として、「特殊憲法学(天皇と憲法)」を教えている。

また、全国各地で真実の日本を教える「竹田研究会」という勉強会を開催している。会員数は、全国で8,500人以上。(平成25年現在)

▼今年度の教育講演会は、竹田恒泰さんに講師をお願いしました。おまかな紹介は上記のとおりですが、日曜日に某テレビ局で放送されている「たかじんのそこまで言つて委員会」に出ている人と言え、ピンとくる方もおられるかもしれません。▼講演をお願いするにあたって、著書「日本人はなぜ日本のことを知らないのか」を読みました。日本という国の成り立ちから始まり、日本とあることに自信をもつことができる内容でした。▼教育再生実行会議では、英語教育の実施学年の早期化や実施時間増についても提言があり、今後、中教審で検討されることとなります。国際化が進むこの時代、英語が話せることは素晴らしいことです。しかし、我が国の伝統や文化を理解し、尊重できる人間であるからこそ、海外の方とも対等に意見交換できるのではないのでしょうか。▼今回の講演会、会員の皆さんを始め、教育関係者、一般の方、島教協の先輩方等いろいろな方々へ宣伝していきます。島教協の取り組みや姿勢を知っていただくいい機会です。▼二学期の講演会ですので、まだ予定が立てられない会員の方も多いことでしょう。二学期の行事予定が分かる頃、再度ご案内いたします。今回は是非ご参加ください！ (し)